

第14回 明治大学小史展

# 明治大学の創立者

2003・11・11（火）～2004・1・16（金）  
大学会館1階ロビー  
主幹 明治大学史資料センター事務室

2001年は明治大学が創立して120周年であるとともに、創立者が誕生して150年目であった。この年、本学関係者は創立時の労苦と建学の精神を再認識することとなった。その後、昨年は創立者宮城浩蔵の出身地山形天童市に胸像が建立された。また本月には、同じく矢代操の出身地の福井県鯖江市でも建立される予定である。

ここに展示した創立者に関する資料により、創立時を振り返るとともに、今後の糧としていただければ幸いである。



創立者と判事登用試験合格者の記念写真（明治17年）  
(中列左から一人目矢代操、六人目宮城浩蔵、後列左から二人目岸本辰雄)

## 展示品

### I 岸本 辰雄

#### I—1 プロフィール

嘉永4（1851）年11月8日～明治45（1912）年4月4日 鳥取藩士。司法省法学校卒業。パリ大学留学。法律学士。司法省参事官、大審院判事歴任。明治法律学校設立。初代校長。行年61歳。

#### I—2 顔写真（明治後期）



#### I—3 胸像（2001年10月撮影）

岸本辰雄の胸像は戦前、北村西望により製作されたが、戦時下の金属回収により没収された。戦後、再建され、創立120周年時にはリニューアルされた。リバティタワーの陽だまり広場にある。

#### I—4 司法省法学校生徒成績上申書（明治9年1月）

同校教師ボアソナードが政府に上申した生徒の成績順位に関する文書である。創立者の名が見える。

#### I—5 学籍簿（明治9年1月）

パリ法科大学に入学した岸本辰雄の成績が記されている。成績は上位であった。

#### I—6 書簡（9月21日、明治18年頃）

寄宿舎学生指導担当の塾監五味武策に宛てた、授業に関する連絡である。複製。

#### I—7 著書『商法講義』第2巻（明治24年7月）

岸本が得意とするのは商法である。本書は全4巻からなる。

#### I—8 『明治法学』発刊の辞（明治32年9月）

校誌『明法誌叢』を改題したものである。この明治30年代前半の明治法律学校は大学昇格をめざし、学内の整備拡充につとめていた。

### II 宮城 浩蔵

#### II—1 プロフィール

嘉永5（1852）年4月15日～明治26（1893）年2月14日 天童藩士。司法省法学校卒業。パリ大学入学、リヨン大学卒業。法律学士。検事、司法省参事官等歴任。明治法律学校設立。初代教頭。衆議院議員。行年41歳。

## II—2 顔写真（明治中期）

### II—3 胸像（2001年10月撮影）

2001年10月、創立120周年を記念して、富永直樹氏により製作された。リバティタワーの陽だまり広場にある。



### II—4 パリからの書簡（明治9年10月）

宮城浩蔵は国費でフランス・パリ法科大学に向った。その時の旅のもようと、到着後のようすを父に宛てたものである。実物は存在しないが、遺族が写しておいた。

### II—5 『刑法講義』（明治17年5月）

「東洋のオルトラン」と称されるほど、宮城浩蔵は得意の刑法論を中心に講義、執筆、演説にと活躍をした。

### II—6 学籍簿（明治9年11月）

岸本とともにパリ法科大学に学んだ宮城浩蔵も優秀な成績であった。のちにリヨン大学に移った。

### II—7 『法政誌叢』第126号（明治24年4月）

宮城浩蔵は斬新、かつ明解な法理論を校誌等に次々と発表した。

### II—8 衆議院議員当選祝賀会案内状（明治25年2月）

宮城浩蔵が第1回衆議院議員に当選した時の祝賀会の案内状である。複製。

## III 矢代 操

### III—1 プロフィール

嘉永5（1852）年6月20日～明治24（1891）年4月2日 鯖江藩士。司法省法学校卒業。講法学社幹事。元老院書記官、貴族院書記官歴任。明治法律学校設立。行年39歳。

### III—2 顔写真（明治中期）

### III—3 胸像（2001年10月撮影）

2001年10月、創立120周年を記念して、富永直樹氏により製作された。リバティタワーの陽だまり広場にある。



### III—4 旧宅跡（2003年10月撮影）

松本家の三男操は、同じ家格である藩士の矢代家の養子

となった。現在、矢代家跡は鯖江市街に確認できる。

III—5 出版広告（明治10年7月）

翻訳書『仏国民法財産相続略表』を、経営や教育に関わった講法学社より出版した時の広告である。

III—6 辞令（明治14年5月）

今日、矢代操に対する辞令のほとんどは学内に残されている。この時に勤務をした元老院とは立法を担当するところである。

III—7 委員会・貴族院規則書（明治22年）

矢代操は元老院や貴族院で法律や規則の制定に当った。この資料はその内のひとつである。複製。

III—8 『仏国民法契約篇講義』（明治25年頃）

矢代操が最も得意としたのは民法である。平易な文章で分かりやすく書かれている。

2003・11・11

明治大学史資料センター事務室

☎ 03(3296)4085・4086